

評価報告概要表

第三者評価機関

名 称	社会福祉法人 山口県社会福祉協議会
評価調査日	平成20年11月14日(金)

福祉サービス事業者情報

名 称	吉 祥 苑	種 別	特別養護老人ホーム
代表者氏名	施設長 辻 野 史 朗	開設年月日	平成17年2月1日
設置者	社会福祉法人 福 祥 会	定員(利用人数)	60名(58名)
所在地	〒759-4103 長門市深川湯本600番地の1		
電話番号	0837-22-7700	FAX番号	0837-22-7711
ホームページアドレス	http://www18.ocn.ne.jp/~fukusho/kisyo/index.html		

総 評

全体を通して(事業所の優れている点、独自に工夫している点など)

特に評価の高い点

明るく、広々とした、清潔感あふれる空間の中、ユニット(利用者10名)ごとに、丁寧に個別ケアが行われていました。居室は全て個室で、利用者のプライバシーが確保されており、ゆったりとした雰囲気の中で過ごされていました。外部監査が実施されており、法人の信頼度アップにつながっていると推察します。また、人事考課や職員研修、リフレッシュ休暇など職員を大切に、育てて行く姿勢を感じました。

改善を求められる点

利用者は、直接要望を伝えることが難しい高齢者ですので、全体として要望、意見を聞き取るための仕組みづくりが必要です。利用者一人ひとりに合った個別ケアを標準化し、その計画に基づき実施し、定期的に評価・見直すという、計画(標準) - 実施 - 評価 - 見直しのサイクルを廻すことが重要です。

増床の計画に加えて、ユニットリーダー研修施設になるための中・長期計画の策定が必要であり、これらの計画は、全ての職員の参画の基に、増床の必要性や、さらなるユニットケアの質を高める必要性、ユニットリーダー研修施設になる意義などを理解し、組織として全職員が一丸となって推進する必要があります。計画的な職員育成のために、職員ごとの研修計画が必要です。また、入浴については、特殊浴槽と個別浴槽を利用者が同時に利用される場合におけるプライバシーへの配慮に工夫が必要です。なお、終末期ケアについては実施されていませんが、特別養護老人ホームに求められる一つの機能として検討されてはいかがでしょうか。

第三者評価結果に対する事業者のコメント・事業所のPR

ユニット型施設で創設後日も浅いこともあり、介護の高度な技術と福祉援助の視点に立って個別ケアの実現をするという本質を理解するには努力不足もあり、少し時間的な経過について行けなかったと反省している。

今回、第三者評価を受けたことで、不足する指摘事項の改善に向け努力目標ができ感謝している。本苑は周囲が里山と田園風景に囲まれ、海や市街地を見渡せる高台に立地している。外部環境は良好でゆとりがあり、部屋は全個室(入所50室、ショート10室)の生活しやすい住環境にある。

評価報告概要表

評価分野別評価結果(分野別の特記事項)

福祉サービスの基本方針と組織	a	4	b	4	c	4	Na	0
<p>理念「自分らしさ」が明文化され、理念に基づく基本方針、施設運営の目標、援助の目標が文書化されています。しかしながら職員・利用者・家族への周知が十分でないことから、これらの周知のための工夫が必要です。また、それぞれの目標について、達成できたかどうかの評価が困難なものが多く、できたのか、できなかったのか、どのくらいできたのかが数値化できるような目標を検討され、具体的な数値目標や達成状況が数値化できるような計画の策定が望まれます。</p> <p>さらに、ユニットリーダー研修施設を目指した具体的な中・長期計画の策定に取り組まれることを期待します。</p>								

組織の運営管理	a	9	b	7	c	6	Na	0
<p>公認会計士による外部監査を実施し、会報により運営内容を開示されておられることは高く評価できます。</p> <p>地域との交流も大切にされ、事業所の機能を地域に還元されるなど地域になくてはならない存在であることが感じられました。</p> <p>「業務管理評価シート」を活用した人事考課、外部研修会への積極的参加、リフレッシュ休暇など職員を大切に、育てて行く姿勢がうかがえます。さらなる職員の育成のために、求める職員像を明確にし、職員一人ひとりの個別研修計画の策定や、法人として必要な人材・人員体制のプランが必要です。</p>								

適切な福祉サービスの実施	a	8	b	7	c	7	Na	0
<p>理念・基本方針を達成するためにサービスの質を確保し、維持し、向上させることが必要となりますが、個々のサービスの標準化が十分ではありません。個別ケアの展開には利用者一人ひとりに合った個別ケアを標準化し、スタッフだれもが標準化された個別ケアが提供できることが求められています。さらに定期的に評価し、必要に応じて見直しが必要です。計画(標準) - 実施 - 評価 - 見直しのサイクルを廻すことが必要です。このサイクルを廻すことでサービスの質が高まります。サービスの質が高まったかどうか、利用者・家族の評価を満足度として把握することも重要です。</p> <p>計画 - 実施 - 評価 - 見直しのサイクルを廻し、サービスの質を高め、結果として利用者・家族の満足度が高まることを期待します。</p>								

良質な個別サービスの実施	a	19	b	5	c	1	Na	3
<p>利用者と家族との連携・交流を図るため、毎月発行している広報紙で、利用者一人ひとりの状況を家族に報告していることは高く評価できます。</p> <p>共同生活スペースは、利用者が過ごしやすいようユニットごとに工夫が凝らされ、良質な個別サービスが提供されていました。</p> <p>終末期ケアについて未実施でありましたが、特別養護老人ホームの一つの役割として終末期ケアが重要視されてきています。今後の取り組みに期待します。</p>								